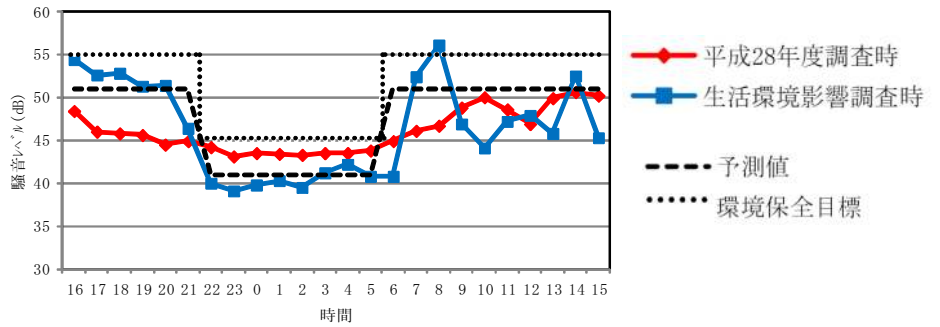


**1. 施設稼働騒音・振動及び低周波音（発生源強度確認調査）**

調査実施日：平成 28 年 11 月 28～29 日

**1-1 騒音**

敷地境界における騒音調査結果について、昼間・夜間で環境保全目標「騒音に係る環境基準（B 類型）昼間 55dB 以下、夜間 45dB 以下」を満足していました。

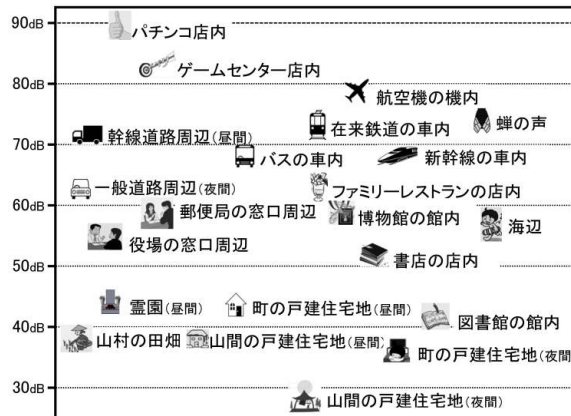


単位：dB

時間帯	平成28年度調査時	生活環境影響調査時	予測値		環境保全目標	
	(a)	(b)	(a)-(b)	(a)-(c)	(a)<(d)	(d)
昼間平均	47.9	51.0	- 3.1	- 3.1	○	55以下
夜間平均	43.5	40.5	+ 3.0	+ 2.6	○	45以下

注：昼間は6時～22時，夜間は22時～6時を示す。

**参考：騒音レベルの目安**



注) LAeq とは、等価騒音レベル：不規則かつ大幅に騒音レベルが変動する場合に、測定時間内の騒音レベルのエネルギーを時間平均したもの。

資料) 環境省 HP

**1-2 振動**

敷地境界における振動調査結果について、全ての時間帯で 30dB 未満であり、環境保全目標「特定工場において発生する振動の規制に関する基準（第 1 種区域）昼間 60dB 以下、夜間 55dB 以下」を満足していました。なお、大部分の人が振動を感知するレベル<sup>注</sup>は、55dB とされています。

注：大部分の人が振動を感知するレベル(55dB)

第 2 版 環境計量証明事業実施者のための振動レベル測定マニュアル（(社) 日本環境測定分析協会 平成 13 年）

**1-3 低周波音**

敷地境界における低周波音は、L<sub>50</sub> 及び L<sub>G5</sub> とともに参考指標値以下でした。また、類似施設である旧クリーンセンターの屋外の調査結果と比較して同程度または低い数値であることや、新センターに隣接して住居等の人の生活空間が存在しないことから、環境保全目標である「周辺住民の日常生活に支障を生じさせないこと」を満足していました。

単位：dB

調査地点	測定項目	時間最大値	参考指標値	
敷地境界	L <sub>50</sub>	75	○	90 <sup>注3</sup>
	L <sub>G5</sub>	81	○	100 <sup>注4</sup>

注 1) L<sub>50</sub> とは、「50%時間率音圧レベル(1-80Hz 平坦特性)」を表す。

注 2) L<sub>G5</sub> とは、「5%時間率低周波音圧レベル (G 特性)」を表す。

注 3) 一般環境中に存在する低周波音圧レベル「環境庁大気保全局：低周波音空気振動調査報告書」

注 4) 平均的な被験者が知覚できる低周波音 (1~20Hz) 「ISO7196」

## 2. 周辺環境調査

### 2-1 大気質（平成 28 年度 秋季、冬季実施）

全調査地点の調査結果は、すべての項目で環境保全目標（環境基準等）の数値の十分の一以下と、環境保全目標を満足していました。なお、施設稼働後の数値は、生活環境影響調査時（平成 24 年度）の数値及び予測濃度と比較すると、同程度もしくは低い傾向にあります。

#### ①国道 8 号沿道（秋季のみ実施）

調査地点 調査項目		国道 8 号沿道		年平均予測濃度	日平均予測濃度		
		施設稼働後				生活環境影響調査時	
		秋季				秋季	
二酸化窒素	期間内平均濃度 (ppm)	0.014		0.015	0.018	0.036	
浮遊粒子状物質	期間内平均濃度 (mg/m <sup>3</sup> )	0.008		0.014	0.022	0.039	

#### ②大篠原地区

調査地点 調査項目		大篠原地区				年平均予測濃度	日平均予測濃度
		施設稼働後調査		生活環境影響調査時			
		秋季	冬季	秋季	冬季		
二酸化窒素	期間内平均濃度 (ppm)	0.006	0.006	0.008	0.014	0.010	0.023
二酸化硫黄	期間内平均濃度 (ppm)	0.001	0.001	0.002	0.001	0.003	0.005
浮遊粒子状物質	期間内平均濃度 (mg/m <sup>3</sup> )	0.008	0.011	0.008	0.014	0.017	0.044
塩化水素	1 時間最高濃度 (ppm)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.002	—
ダイオキシン類	(pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.0053	0.0051	0.013	0.018	0.015	—

#### ③大篠原 出町・入町地区

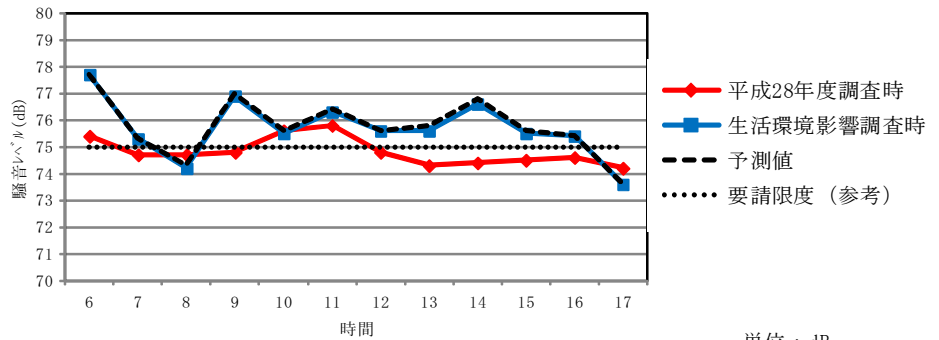
調査地点 調査項目		大篠原出町・入町地区				年平均予測濃度	日平均予測濃度
		施設稼働後調査		生活環境影響調査時			
		秋季	冬季	秋季	冬季		
二酸化窒素	期間内平均濃度 (ppm)	0.008	0.008	0.010	0.016	0.013	0.030
二酸化硫黄	期間内平均濃度 (ppm)	0.001	0.002	0.002	0.002	0.004	0.007
浮遊粒子状物質	期間内平均濃度 (mg/m <sup>3</sup> )	0.012	0.008	0.011	0.017	0.021	0.052
塩化水素	1 時間最高濃度 (ppm)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.002	—
ダイオキシン類	(pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.0046	0.0042	0.0038	0.018	0.013	—

#### ④鏡地区

調査地点 調査項目		鏡地区				年平均予測濃度	日平均予測濃度
		施設稼働後調査		生活環境影響調査時			
		秋季	冬季	秋季	冬季		
二酸化窒素	期間内平均濃度 (ppm)	0.009	0.008	0.009	0.014	0.011	0.024
二酸化硫黄	期間内平均濃度 (ppm)	0.001	0.001	0.002	0.002	0.003	0.005
浮遊粒子状物質	期間内平均濃度 (mg/m <sup>3</sup> )	0.009	0.008	0.012	0.016	0.019	0.048
塩化水素	1 時間最高濃度 (ppm)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.002	—
ダイオキシン類	(pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	0.0061	0.0056	0.032	0.019	0.023	—

## 2-2 騒音（道路交通騒音）（平成 28 年度 秋季実施）

沿道地点における騒音調査結果について、生活環境影響調査時（平成 24 年度）及び予測値より概ね低い数値で推移しており、環境保全目標である「現況に著しい影響を及ぼさないこと」を、満足していました。

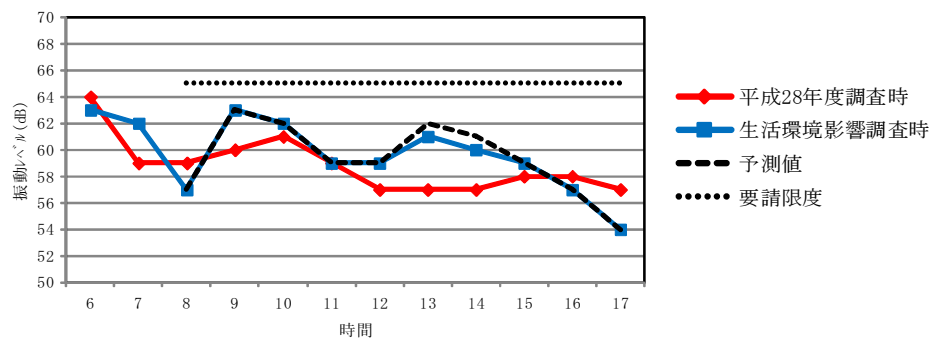


項目	平成28年度調査時 (a)	生活環境影響調査時 (b)		予測値 (c)		環境保全目標
	$L_{Aeq}$	$(a) - (b)$	$L_{Aeq}$	$(a) - (c)$	$L_{Aeq}$	
調査時間帯 6～18時平均	74.8	- 1.0	75.8	- 1.1	75.9	現況に著しい影響を及ぼさないこと ※参考：要請限度75dB以下（昼間：6時～22時）

※要請限度とは、騒音規制法において、自動車単体から発生する騒音の大きさの限度のことで、市町村長が県公安委員会に道路交通規制等の措置を執るべきことを要請する騒音の限界。

## 2-3 振動（道路交通振動）（平成 28 年度 秋季実施）

沿道地点における振動調査結果について、生活環境影響調査時（平成 24 年度）及び予測値より概ね低い数値で推移しており、環境保全目標「道路交通振動の限度（要請限度）の（第 1 種区域）昼間 65dB 以下」を満足していました。



項目	平成28年度調査時 (a)	生活環境影響調査時 (b)		予測値 (c)		環境保全目標 (d)	
	$L_{10}$	$(a) - (b)$	$L_{10}$	$(a) - (c)$	$L_{10}$	$(a) < (d)$	$L_{10}$
調査時間帯 8～18時平均	58	- 1	59	- 1	59	○	振動規制法に基づく要請限度 昼間：8時～19時65以下
6～8時平均	62	- 1	63	-	-	-	-

注：1）6時から8時までの時間帯については、関係車両が走行しない時間区分（夜間）のため、予測値及び環境保全目標は設定されていない。

## 2-4 水象・水質（平成 28 年度 秋季、冬季実施）

河川水質中のダイオキシン類については、全ての地点で生活環境影響調査時（平成 24 年度）の結果の範囲内であり、環境保全目標である「現況の水質を著しく悪化させず、周辺住民の日常生活に支障が生じないこと」を満足していました。なお、河川流量については、No. 4 天神川で実施し、生活環境影響調査時の同時期と比較して大きな差はありませんでした。

調査地点	施設稼働後調査		生活環境 影響調査時	環境 基準	環境保全目標
	秋季	冬季			
No. 3 稲荷川・光善寺川 合流地点	0.097	0.060	0.082 ～ 0.11	1 以下	現況の水質を著しく悪化させず、周辺住民の日常生活に支障が生じないこと
No. 4 天神川	0.045	0.036	0.042 ～ 0.052		
No. 5 光善寺川・天神川 合流地点	0.053	0.051	0.040 ～ 0.087		

## 2-5 底質（平成 28 年度 秋季、冬季実施）

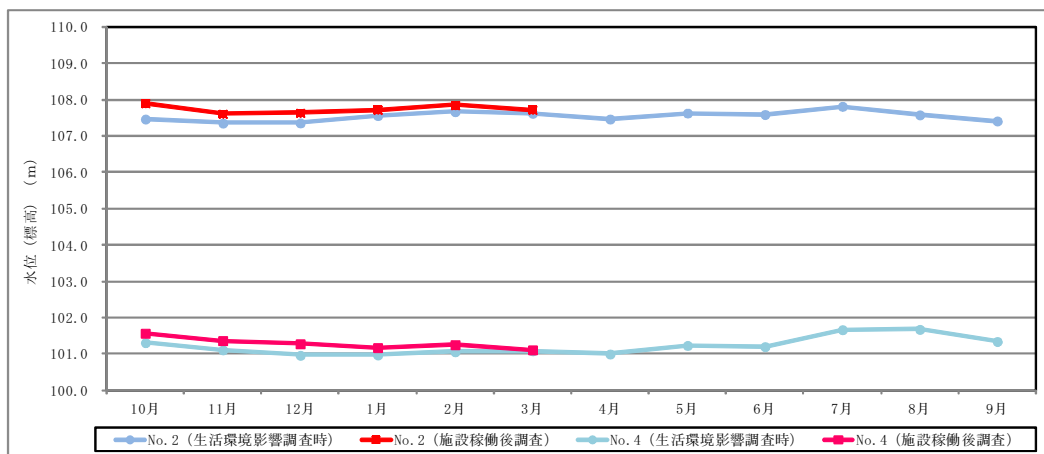
底質中のダイオキシン類については、全ての地点で生活環境影響調査時（平成 24 年度）の結果より低い値であり、環境保全目標である「現況の底質を著しく悪化させず、周辺住民の日常生活及び利水に支障が生じないこと」を満足していました。

単位：pg-TEQ/g

調査地点	施設稼働後調査		生活環境影響調査時	環境基準	環境保全目標
	秋季	冬季			
No. 3 稲荷川・光善寺川 合流地点	1.6	2.8	1.8 ~ 31	150 以下	現況の底質を著しく悪化させず、周辺住民の日常生活及び利水に支障が生じないこと
No. 4 天神川	1.5	2.3	2.1 ~ 3.0		
No. 5 光善寺川・天神川 合流地点	0.54	0.48	0.59 ~ 3.8		

## 2-6 地下水（平成 28 年度 10 月～実施）

地下水位について、生活環境影響調査時（平成 24 年 5 月～平成 25 年 4 月）との水位に大きな違いは見られず、環境保全目標である「現況の地下水を著しく悪化させず、周辺住民の日常生活に支障が生じないこと」を満足していました。



注) 施設稼働後調査の3月のデータについては、水位計からのデータの抜取日の関係上、3月23日までのデータの集計を示す。

## 2-7 景観（平成 28 年度 秋季実施）

新野洲クリーンセンターの色彩は、落ち着いた色彩を採用しており、施設の存在及び供用によって、景観の大きな変化は見られないことから、環境保全目標である「周辺の景観との調和が図られていること」を満足していました。



予測写真(フォトモンタージュ)



生活環境影響調査時



現況（供用時）